

平成 30 年度 特別史跡熊本城跡保存活用委員会
第 1 回公開活用部会 議事録

I 開催日時等

1. 日 時：平成 30 年 10 月 5 日（金）午後 2 時から午後 3 時 30 分まで
2. 場 所：くまもと県民交流館パレア 9 階 会議室 4
3. 出席者：伊東部会長、今村委員、谷崎委員、富田委員、西嶋委員、西村委員
毛利委員、平井委員長（オブザーバー）
4. 欠席者：伊東（麗）委員、永田委員
5. 事務局：（熊本城総合事務所）
田代所長、津曲首席審議員、野本副所長、事務局、網田副所長 他
6. 関係者：文化振興課、観光政策課、公園課、熊本県文化課

II 次第及び議事等

1. 開会
2. 委員紹介
3. 熊本城総合事務所長挨拶
4. 議事及び報告
 - (1) 熊本城の復旧状況について
 - (2) 2019 年度の熊本城特別公開について

（伊東部会長）

- ・伊東です。よろしくお願ひしたい。委員の先生方もお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。また、委員長の前井先生もわざわざお越しいいただきありがとうございます。
- ・昨年度は天守復興部会ということで、熊本城の公開と活用について議論してきた。内容的には、同じように公開活用を取り扱う部会かと思っているが、名称が改めて「公開活用部会」に変わったとのことで、そこに新たに伊東麗子委員を加えてより充実した部会になったということである。
- ・本日は第 1 回目ということで、まずは熊本城の現在の復旧状況を説明いただいた後、本題の 2019 年度特別公開について議論いただければと考えているので、どうぞよろしくお願ひしたい。
- ・それでは、まず議事及び報告の（1）熊本城の復旧状況について、事務局から説明をお願ひしたい。

- ・事務局が「資料 1：熊本城の復旧状況」を用いて説明後、質疑応答。

(伊東部会長)

- ・はい、ありがとうございました。
- ・ただいま復旧状況について説明いただいたが、委員の先生方からご意見・ご質問等はないか。

(西村委員)

- ・いま説明いただいた部分はよく分かったわけだが、その他に今壊れかかっている建造物が目に付くけれども、その辺の対策は今後の過程の中で出てくると思うが、それらの調査や準備は進んでいるのか。
- ・例えば、馬具櫓とか戌亥櫓とか石垣が崩落していて、今、その姿が見えているわけだが、その辺の善後策というか対策は現在どのように進んでいるのか。

(事務局)

- ・西村委員からあった戌亥櫓や馬具櫓だが、もちろん非常に不安定な状況だということは私どももしっかり認識しているところ。
- ・特に戌亥櫓については、あのような状況であり、現在、一番効果的なやり方を検討している状況である。出来るだけ早く安全対策から入っていきたいと考えており、検討を進めて早期の着手を心掛けていきたい。
- ・馬具櫓も一緒に、時期も含めて現在検討中である。はっきりご報告できる状況になったら、ご報告させていただきたい。

(伊東部会長)

- ・他にはないか。

(毛利委員)

- ・石垣の石材置き場について少し聞きたいのだが、本丸地区だけではなくて、本丸地区以外の櫓とか、或いはその下の石垣がかなり崩壊して、損傷を受けているが、今いろいろな所に石垣の石が置かれている。
- ・野鳥園を潰して石置き場にするという話があって、これは取り止めになったが、古城堀端の所に石を置いたりしているけれども、現時点で復旧のための石置き場については十分足りているのか、それともまだ新しい所をどこか置くように考えているのかを教えてもらいたい。

(事務局)

- ・石置き場については、昨年度、復旧基本計画を作った際に、どれくらいのスペースが必要かについて検討をして、あら方の検討はつけている状況である。

- ・委員が言われた野鳥園については、出来れば置かずに済むのであれば、置かない方がよいとの要望も受けてのことだったので、そのようなご意見も伺いながら、例えば、近々復旧するものについては近くに置いておきたいとか、しばらく時間が掛かるものについては少し遠くでもいいということ等を判断しながら、置き場の確保も進めているところであり、現時点で、石置き場の目処は付けて復旧を進めている状況である。

(毛利委員)

- ・新聞やテレビでも報道されたが、合同庁舎の跡地にも置くという計画、それからテニスコートの跡地を今使っているとのことだけれども、そこについても触れていただけないか。

(事務局)

- ・合同庁舎跡地については、昨年度策定した復旧基本計画の中で、石材や資材置き場として利用する計画としているところ。
- ・テニスコートの跡地は三の丸の北側のテニスコートかと思うが、テニスコートについては、今のところ資材置き場や石材置き場として利用する計画はない。

(伊東部会長)

- ・毛利先生、よろしいか。他に何かないか。
- ・復旧状況についてはよろしいか。それでは、次に進みながら、何かあればその都度ご意見・ご質問をいただければと思う。
- ・それでは、次が本日の公開活用部会の本題となるかと思う。2019年度の特別公開についてということで、これについては、先般少し公表された部分もあるが、公表された部分も含めて説明いただければと思う。事務局から説明をお願いします。

- ・事務局が「資料2：熊本城の公開スケジュール（2018年度～2019年度）」、「資料3：2019年度の特別公開に係る観覧ルート・来城者動線」を用いて一括して説明後、質疑応答。

(伊東部会長)

- ・はい、ありがとうございました。
- ・事務局より2019年度の特別公開ということで、そのスケジュールと観覧ルート、観覧者動線ということの説明いただいた。
- ・公開エリアや観覧ポイント、どこでどういったものが見えるのかについては、後ほど資料で説明があるようだが、先ほど説明のあったスケジュールやルート等について、ご意見やご質問をお願いしたいと思う。

(谷崎委員)

- ・いま料金所という説明があり、少しびっくりしたのは有料エリアということが一点。これは有料でなければいけないのかなという思いなのだが、いわゆる工事で進んでいる状況をひとつの観光資源として使っていこうという点ではあるが、天守閣の中まで入れるわけではないという中で、この広場までのところでの有料ということが、私は少しいかがなものかと思った。
- ・それと、加藤神社の方から入ろうとすれば、直接行けずに一応料金所まで行ってバックしてくるというふうに見えるが、観光客の方に対して、その対応でいかがなものか。紫色の星印で図示されているもぎり場のところで、例えば有料にするのであれば、そこでの料金受領ということも可能ではないかなと思うのだが、その2点について伺いたい。

(西嶋委員)

- ・私も同じ点について尋ねようと思っていたので、関連してよろしいか。
- ・私がかねがね料金は徴収すべきと思っていた。それはやはり、見ない人と見る人にそのサービスを受ける側に何が違うのかということなので、これまで有料域が設定されていた意味はなんだったのかということまで遡る話になる。
- ・私は、積極的に料金を徴収して、これまでとは少し違う料金体系、徴収の考え方、生かし方まで、この機会に踏み込んで設定していただくべきと思っている。付け焼刃的な料金設定をしてしまうと、そのことが適わなくなるので、かねがね申し上げてきたわけである。
- ・やはり 20 年の道のりの中でどのような料金徴収をしていくのかということをしっかり議論して検討してもらわないと、当座のことだけで、ここで決めていくことではないと思っている。以上である。

(事務局)

- ・まず、1 点目の入園料については、従前から市議会でも答弁させていただいており、旧有料域を都市公園条例で行幸坂以东ということで設定しているが、熊本市としても従前の有料区域については入園料を徴収していきたいということで答弁等をしているところなので、入園料は徴収していく方向で考えているところ。
- ・ただ、入園料をいくらにするのかということについては、公開エリアの面積・広さだとか、それから公開エリアとしての広がりには限られている中でも被災状況や復旧過程などが見られる付加価値といったものもあろうかと思うので、まさに今内部でそういったものを勘案しながら検討を進めており、従前は 500 円という入園料を高校生以上で取っていたが、そのままの料金にするのか、或いは料金を上げるのかということも含めて検討しているところ。

- ・また、2点目の加藤神社から二の丸芝生広場まで戻ってくるのが、果たしてどうなのかというご意見については、料金所がどうしても二の丸広場の1ヶ所という運用になるため、ここまで来て一回買っていただかないといけないというような動線にどうしてもなってくるので、一度やはり二の丸の方へ来ていただいて、色んな方面から来ていただいた方と同じように並んで買ってもらって、順番にご案内するという考え方である。
- ・我々としては、そのような形でご案内をしようと考えているので、加藤神社方面から来られる方達が、決して何か不利益を被っているとは考えていない。

(伊東部会長)

- ・谷崎委員、いかがか。

(谷崎委員)

- ・そのように決まっているからということでは、私は納得できない。
- ・加藤神社側から来て、そして二の丸の方に料金所があるということで、そっちに向かってまたバックして行かないといけないという部分での観光客に対する利便性の問題というものは考えるべきではないかということで話をしたわけであり、西出丸に設置できない具体的な話、やはりここにしか料金所は置けないということであれば、それはそれなりに納得できる根拠だと思う。
- ・西出丸の所に全部合流していくので、そこのところで、過去にあった料金徴収所の所での設置ということも現況からすると難しいという物理的な理由で説明があれば納得もできるし、観光客の方にもそういう説明をして、二の丸まで足を運んでいただくということの意味合いを理解してもらわなければならないと思う。
- ・西出丸から本丸が全く見えない、天守閣側が見えないということであればいいが、加藤神社側から来て、左折して前あった料金所まで進もうとすると、それはできないで二の丸まで戻るということは非常に何か、私がもし観光客であれば、なんであっちの方まで行かなければならないのかと思うので、そういった意味での物理的な理解ができるような根拠を何か示してもらった方がいいと思う。

(事務局)

- ・先ほど部会長からもあったとおり、後ほど二の丸のエリア図について説明させてもらうが、恐らくかなり多くの方々が来られると考えており、料金所の前辺りにもかなりゆとりのあるスペースがないと並ばれる方達のスペースが確保できないのではないかと考えている。
- ・ただ、ご指摘の視点を踏まえて一度検討はしてみたいと思う。

(伊東部会長)

- この後まだ資料があって、その辺りの待機場所についての説明などもあるので、そこでまた谷崎委員も話を聞いてもらって、また何かあったら是非言っていただきたいと思うので、一旦ここは先で議論したいと思う。
- それから西嶋委員の料金設定についてはよろしいか。

(西嶋委員)

- 20年間の道のりの中で、どういう風な料金設定、徴収、いわゆる本質的な見学のある様、今までのアナログ一辺倒ではなくて、総合的に検討する場を作ってもらわないと付け焼刃的になってしまうのではないかという話をした。
- 例えば大阪城は入園料というものは無いので、夜も自由に10時、11時まで公園の中に皆さんが入っておられる。天守閣だけは入場料というか、登城料というか取っていて、天守閣の登城料で二百数十万人を確保されているという例もあるので、そういう新しい例も入れて、別のところでしっかり議論してもらいたいと思う。

(伊東部会長)

- これはお願いということでいいか。

(西嶋委員)

- そうである。

(伊東部会長)

- そういうご意見も取りまとめて議論していきたい。
- 他にご意見はないか。

(平井委員長：オブザーバー)

- 少し聞いていいか。オブザーバーだから私は聞いてはいけないと思うが申し訳ない。
- 資料3に、破線で特別見学通路仮称と書いてあるが、整備中とも書いてあるから、既に仕事が始まっているのかと思うが、ここもどこかで料金を取るのかということと、行った先はどこまでなのか、何が見える通路なのかということをお教えしてもらえればと思う。
- あんまりこの辺りからは見えるものがないと思うが。

(事務局)

- 見学通路については、地震の被害がひどいということもあり、昨年基本計画を策定する中で段階的に人を入れていく手段のひとつとして了承もいただいたところ。
- 今の状況としては設計の最中であり、いま委員の皆様にも具体的にこういうかたちでこう

いうルートになるなどのしっかりとした説明というものが未だ出来ない状況であるので、この部会では恐らく 2 回目の部会の中でしっかりと皆様にお示しをして、ご議論をいただく予定としているところ。

- ・ルートとしては、基本計画に記載のとおりであり、本丸御殿北側のところで通路は一旦着地して、本丸御殿の中の暗がり通路を通過して、天守前広場まで行くという基本的なルートは計画策定時点から変わっていない。
- ・視点場についても 6 メートルの高さから俯瞰的に見るというものになるので、今まで見えなかったものが、上から見えるということで新たな視点になるかと考えており、こういったものになるといった具体的な説明ができるような資料も含めて設計を進めているところ。
- ・具体的には、もちろん天守閣前広場まで行けるので最終的には天守閣を見ることができるとし、中に入れるようになれば見学通路を通過して中の方に入るルートともなるし、見学通路の上からも石垣の被災がそのまま残っている状況とか、飯田丸の方も今後工事が進んでいくので櫓が復元していく状況とか、あらゆるものをご覧いただける場所になると私どもとしては考えているところ。

(平井委員長：オブザーバー)

- ・有料なのでどこかで切符を買わなくてはいけない。そうするとこれは二の丸広場へ行って切符を買ってこなければならないのか。

(事務局)

- ・もぎり場は見学通路の入口のところに設置するが、切符については下から上がってもらうことになるので、基本的には城彩苑に一箇所設けると、あと二の丸は駐車場が残るので、こちらからも来られる方がいるということで、基本的には料金所については、先ほどの料金所の考え方でいきたいというところ。

(平井委員長：オブザーバー)

- ・そうすると桜の馬場で切符を買っていれば、西出丸のこの紫色の星印のところまで行けることになると思うが、ここではそっちの切符は売らないのか。

(事務局)

- ・仮設見学通路が出来た後ということか。

(伊東部会長)

- ・特別見学通路が出来た時に、同時にこちらの黄色い特別公開エリアも動いているのかということに関連していると思うが。

(平井委員長：オブザーバー)

- 一緒のところに行けるわけで、この切符はどこで買うかが分からないのだが。結局、ここで買ったとすれば、こっちも、ここまでいけるということになる。

(事務局)

- 見学通路が出来た際には、日祝については工事が止まっており、基本的には回遊性が取れるというかたちになるので、見学通路のところまでチケットを渡して、もぎりをするということになる。

(平井委員長：オブザーバー)

- だから、その切符はどこで買うのかと聞いている。

(事務局)

- それは先ほど申し上げた城彩苑か二の丸の二箇所料金所で買ってもらって、基本的に城彩苑で買われた方は見学通路の入り口のところまで行くルートを考えているところ。

(平井委員長：オブザーバー)

- そこまでしか行けないようにするということか。

(事務局)

- 今のところ城彩苑から見学通路までどのようなルートを通るかというところについては、行幸坂を今閉めているので、安全性の確保も含めて検討しているところなので、もう少ししばらくするとそのルートも含めて説明ができる時期が来るのかなと考えているところである。

(平井委員長：オブザーバー)

- 前からこの通路は何が見えるのか、何のために造るのかよく分からないので、もう一辺伺ってみただけである。
- これ別に何も見えないのでは、新しいものは。

(事務局)

- 熊本城内で今まで見えなかった上からの新しい視点というのはあると考えている。

(平井委員長：オブザーバー)

- だって数寄屋丸より低いと思うが。

(事務局)

- ・ そうです。

(平井委員長：オブザーバー)

- ・ そうですね。本当だったら、これ飯田丸の南側にあればもっと面白いのに、何でこういところで造るのかと私には全然分からない。飯田丸がみんなたぶん見たいのに、それは後ろからで全然見えない。
- ・ まあ、それはこれでもう進行しているなら。何か磯田先生の提案であるようなので、磯田先生から細川さんに降ってきた提案のようなので。

(事務局)

- ・ あの少し説明を追加させてもらおうと、今回計画している見学通路については、なかなか今まで飯田丸にお客様が入っていなかったと、ましてやその先の重要文化財のエリアにも足がなかなか進まなかったということもあるので、返って今まで見ていただけなかったところに逆に案内できるかなと思う。
- ・ それと平井委員長が言われた飯田丸だが、今回の見学通路は地上から 6 メーターぐらいなので、少し上方からは見ていただけるかと思う。

(平井委員長：オブザーバー)

- ・ 裏から見えるわけだが。

(事務局)

- ・ 裏からである。表の方はどうしてもまだ竹の丸が工事エリアになっているので、表の方は今後復旧が進めば、竹の丸を開放する時期が来ると思うので、その時には表から、それと今回は裏から、そして今まで見てもらえなかったところを重点的に見てもらえるのではないかと考えているので、また違った面で今後の目線が変わってくるのではないかなと考えている。

(平井委員長：オブザーバー)

- ・ これは日本文化センターの磯田先生から降ってきた話だと思っているので。
- ・ 磯田さんの本は読まれたのか。磯田先生のこの熊本城サグラダファミリア計画という文章は読まれたのか。
- ・ あの先生が提案をして、細川さんにそう言ったのが降ってきたとはっきり書いてある。前から私そう申し上げているが誰もきちんと本を読んでもくれない。

(事務局)

- ・ 私どもの認識としては、昨年の基本計画を策定する中で、熊本市から提案をさせていただいて、策定委員会の皆様方からご意見をいただき、現在の具体的な話として進んでいるという認識である。

(平井委員長：オブザーバー)

- ・ いや、初めから私はその磯田先生の本を読んで下さいと言っているのに誰も読んでくれない。

(事務局)

- ・ 殆ど読んでいると思う。

(平井委員長：オブザーバー)

- ・ きちんと自分が提案したから降ってきたということが書いてあったと思うが。

(事務局)

- ・ 我々は少なくともそう思っていなかった。

(平井委員長：オブザーバー)

- ・ だってはっきり書いてあるではないか。あれがなかったら、たぶん、これは自分で提案とか計画はしなかったと思うのだが。

(事務局)

- ・ 磯田先生や細川さんの方で色々な話があったのかもしれないが、我々は我々で復旧期間中にどうやって公開活用していこうかという視点で議論をしていたし、また、先ほど竹の丸を通せばという話があったけれども、当然、どこを通せばどういう効果があるとか、そういったものも議論して、ただ技術的にここを超えるのはちょっとスパンが長くて難しいとか、高低差が過ぎるとか、それをクリアするためにはスペースが足りないとか、いろんな議論をしたうえで、この現在提案させていただいているルートが実現可能なものだというところで、我々が業務をしていったところ。
- ・ 一方で、磯田先生達の方でそういうアイデアが出て、そういう話があったのかも知れないが、それが直接われわれ熊本市の方に話があって動き出したとか、そういうことではなかったと思う。

(平井委員長：オブザーバー)

- ・ それはあなた方の基本的な、そのなんと言うか、自分達のための答弁だと思うが。

- ・じゃあ磯田先生に聞いてみようか。

(事務局)

- ・それは別に構わないが。

(平井委員長：オブザーバー)

- ・いや、あれだけはっきり書いてあって、それを皆さん方がそれを意識しないで造ったというのは私には理解できない。

(事務局)

- ・我々はその本が出てから知ったことなので、本が刊行する前にそういう話があったという事は存じ上げていなかった。

(平井委員長：オブザーバー)

- ・当然その本が出る前にあったはずでは。

(事務局)

- ・恐らくあったのではないかと思う。まあ、我々とではなく。

(平井委員長：オブザーバー)

- ・だから、あなた方は振ってきたように思っていないだけの話で。

(事務局)

- ・まあそうなのかもしれないが、我々の耳には届かない話だと思う。

(平井委員長：オブザーバー)

- ・もう少し上の方で振っている話。
- ・だから事務所としては、今のような模範答弁をするのが当たり前だと思う。

(事務局)

- ・我々が言ったのは、誰も本を読んでいないと言われたので決してそういうことではないと言っただけのつもりである。

(平井委員長：オブザーバー)

- ・もう早くからその本を読んで下さいと言っていた訳なので、それを意識しないではないと思う。あの話が頭の中のどこにもなくて、この話が市の方から、あなた方の

方から直接出てきたというふうには、どう考えても理解できない。タイミングからいっても理解できない。

- ・だから、その辺はどうやったって水かけ論だろうから、市の方は市の主体でやりましたと言われるに違いないので、別にそれ以上追及する必要もないと思うけれども、実際には、このルートのところからは殆ど何にも面白いものは見えない、新しいものは見えないと思う。

(伊東部会長)

- ・まあ、その辺でよろしいのではないか。

(平井委員長：オブザーバー)

- ・すみません。もうこれで止めます。

(伊東部会長)

- ・分からないところもあるが、このことに関しては、また少し工事進んだところで、かなり見学通路の計画も進んでいると思うので、より良い計画になるようにまたご議論いただきたいと思う。
- ・他にいかがか、よろしいか。
- ・それでは、また先に少し進ませていただく。次の資料4の公開エリア、観覧ポイントについて事務局から説明をいただきたい。

- ・事務局が「資料4：特別公開に係る公開エリア及び主な整備予定」、「資料5：特別公開エリアの観覧ポイント」を一括して説明。
- ・その後、質疑応答。

(伊東部会長)

- ・はい、ありがとうございました。資料4と5のエリアの観覧ポイント等について説明いただいた。
- ・先ほど、前段で谷崎委員から質問も出た料金所の問題は、相当な人が押しかけるであろうということでそのスペースを二の丸の方に設定して考えているということだったかと思うが、谷崎委員いかがか。

(谷崎委員)

- ・今の説明でよく分かった。
- ・西出丸ルートで石垣の安全性が懸念されるということで非常に強固に整備するというところで、それはそれでいいかなと思うが、先ほどのルートを見ていたら、加藤神社の方が

ら監物台の方に回ってそれから二の丸の方に行くというルートと、それから西出丸のルートを通して、私がさっき言ったまた戻らなければならないというルートとあんまり距離的には変わらないので、ひとつの提案として検討してもらえればと思うが、西出丸コースは塞いでもいいのではないかという感じがする。

- ・加藤神社から監物台の方に行って二の丸の方に行かれるとスムーズに料金所及びその後の待機場所に行くかたちになるのかなと思った。Uターンしなくてはならないという部分が私は懸念するので、そういう対応にしておけばいいのかなということで自分なりに少し思ったので、先ほど検討しますという話もあったので、検討の参考にしてもらえればと思います。特に発言は求めません。

(伊東部会長)

- ・ありがとうございます。有益なご指摘だったと思うので、検討してもらえればと思う。
- ・他にいかがか。

(西嶋委員)

- ・今回の工事用スロープを使った見学というものは、この後の特別見学通路、仮設スロープどちらの呼び方になるのか。この後の特別見学通路の見学にも生かすいわゆるパイロットケースだと思うのだが、今後、この特別見学通路は20年の中でこれ1本なのか、例えば5年経つともう1本できるのか、いや勝手なこと言っているのは承知しているが。
- ・その20年の道のりが示されていないので、どういう形で見学が拡大していくのかという意味では、今回の試みはパイロットケースだと思うし、思い切ってやはり多様な対応ということをしてもらうべきではないかと思う。これまではとにかくここに並んでくださいと、では雨が降り出してもこの列の中に皆さんに並んでもらうのか。
- ・例えば、事例では3年くらい前にミラノで万博があった時、チケットが20種類ぐらい発売されていて、いろんな見方ができる。早く買ったりとか、時間帯が決まっていたりとか、いろんなサービスが付いていたりとか、非常に多様性がある。これまでの文化財の見学の仕方というものは、そこに並んで買ってそれしかないというやり方だった訳なので、この機会に先のことまで見越して、多様な購入の方法とか抽選もありだろうし、早期予約もありだろうし、寄附付きもあるのかもしれないけれども、やはりそういうことを幅広く、この機会にパイロットケースとして試すという言葉が悪いが、そういう公開活用を少し拡大していく1つの良いきっかけになると思うので、しっかり検討いただければと思う。

(伊東部会長)

- ・ありがとうございます。これはもうこれからの検討ということで、未来のことで、熊本でこういうことやりだしたということが、全国に波及して行って、いい効果を生めば

本当に素晴らしい事だと思う。

- ・特に熊本地震後ということで、その辺は柔軟に色んな方面ご対応していただけているというように思うし、非常に面白いかなと思う。
- ・他にいかがか。では毛利委員どうぞ。

(毛利委員)

- ・まず、第1スロープ、第2スロープがあるが、スロープの幅員は大体何mぐらいで、これは右側通行なのか、左側通行なのか、一方通行ではないようなので、途中でUターンしてくるということになるので、右の方に旋回していくのか、左にするのか、予め決められているのかないのか、それを1つ教えもらいたい。
- ・それから西大手門の中を通れるようになるのか。右側の元太鼓櫓が崩れているところも安全性を確保して通れるのかを確認したい。この2点を教えてもらいたい。

(事務局)

- ・まず1点目の工事用スロープの幅員は、第1・第2同様に6.6mの幅員である。また、今検討しているが、基本的には左側の3分の2程度を行く人たち、往路として設定して、右側の方を帰路として設定しようと考えている。具体的に6.6mのうちの何mということは今まさに検討しているが、基本的には左側の方が往路、右側の方が帰路というようなかたちで考えている。
- ・それから西大手門等の動線については、先ほど復旧状況の中でも説明したとおり、建物自体も解体して安全対策を施すので、中を通るといえるのか、建物自体が解体されてなくなっていて、そして石垣の安全対策も完了しているので、安全に通れるようになっている状況である。

(伊東部会長)

- ・よろしいか、他にいかがか。富田委員どうぞ。

(富田委員)

- ・二の丸で切符を買って並んでもぎりを通過して、例えば本丸に入って万が一緊急車両が通る場合はこのスロープを通すのか。

(事務局)

- ・そこもまさに今検討しているが、オープン時には、まず警備員の体制は非常に充実した体制で、万全の体制で臨みたいと考えている。
- ・万が一一天守閣前広場等で何か具合が悪いとかそういう方が発生した場合には、警備員等に連絡して基本的にはスロープに緊急車両を通して行く、当然人が多い状況であるため

なかなか大変な作業になるかもしれないが、そこは人的な対応で何とかしたいと考えている。

(伊東部会長)

- ・大変重要なお指摘だった。そういう時は本当に大変かと思うので、シミュレーションとか訓練もしなくてはいけないのかもしれない。
- ・他にいかがか。それでは西村委員どうぞ。

(西村委員)

- ・さっきのもぎり場というか、熊本弁で言うところちぎり場所、切符を切るところだけれども、そこでは切符を売ることはできないのか、料金所との併用は。
- ・検討されたのだろうが、簡単な料金所を切符切りの所に併設すれば、先ほど谷崎委員のご説明のとおり加藤神社から真っ直ぐ行けるのではないかと思うがいかがなものなのか。あまり大きな施設ではなくて結構だろうと思うけれども。

(事務局)

- ・実は我々も最初この第1スロープの下に料金所を設置しようと検討したこともあったが、繰り返しになるけれども、たぶんかなり多くの方々に来られるという場合に、やはり必要最低限というか、十分に並んでもらうスペース、それから料金所自体も、窓口が1つや2つというものではなくて、3つ4つというようにある程度大きな料金所というものを考えなくてはいけないというところから現在の案に至っているところなので、ご理解をいただければと思う。

(西村委員)

- ・頬当御門の所の前の料金所はそんなに大きくなかったし、あれで十分今までは対応してきたと思うのだが。だから、あれより小さいやつでもいいだろうとも思う。
- ・加藤神社から来る人のためだけでも、少し簡単な料金所を併設すれば、先ほど谷崎委員が言われたように、ぐるりと回らなくてもずっと来られる訳で、棒庵坂を登ってきても確かに二の丸広場まで行かなくていい、利用者側からすればそう思う。その辺の検討を少ししてもらえればいいかと思うのだが。

(事務局)

- ・先ほどの谷崎委員のご指摘も踏まえて、もう一回そういった視点で検討はしたい。

(西村委員)

- ・よろしくお願ひしたい。

(西嶋委員)

- ・安心安全が最優先だと思うので、まず、この幅でこの時間単位でどのくらいの人を捌くことを想定されているのかということもあるし、やはり混乱を招かないためにも事前予約制みたいなものが導入できるのか、事前告知みたいなことがある程度その込み具合に関してできるのか。
- ・例えば姫路城は、私行った時には姫路駅を降りると「今、入城は30分待ちです」という表示が電光掲示板に出たりしている。もし並んでいただくのであれば、やはりそういう表示がないと不満だけを持たれて帰って行かれると、見学できて満足した方の何倍という方が不満だけを持たれて帰られるという結果にならざるを得ないので、非常に限られた見学のルート方法なので、それは相当やはり安心安全を確保するという条件のもと、購入方法とかも含め作られるべきルールではないかなと思う。

(伊東部会長)

- ・はい、ありがとうございました。
- ・他にはいかがか。

(今村委員)

- ・先ほどから大勢の人が見学に来られるだろうということを言われているが、実際は事務所としてどれだけの人数を想定して、それに対する対応というか、そういうことを十分考えられたうえでのこの計画なのか。

(事務局)

- ・先般、特別公開の話が公表された時にも一部の報道機関から報道されたが、今我々の方で来城者の推計をしており、2019年度は10月5日からのオープンで約52万人の来城者を見込んでいる。
- ・例えば、翌日の10月6日の日曜日は、おそらく過去最高の本丸御殿大広間落成時の来城者数になることを想定して、約26,000人の方が1日に見えられるということもシミュレーションしている。
- ・そうすると1時間あたりで約3,000人程度は来られる計算になるが、先ほど説明した公開エリアの面積が大体2,300㎡と全部は当然入らないということで、入城制限をどうかかけていくのか、先ほど西嶋委員が言われたような安全安心というもの、安全対策というものが万全でなければならぬと、人を入れすぎた結果、転倒などの事故が起きるということはある得ない事態だと考えている。
- ・それでは、その人数を何人にするのかという検討を今まさにしているところなので、そういった対策というか、やり方というものをまた改めて報告させていただければと思っている。

(谷崎委員)

- ・すみません。困っているのだが、切符のところで、資料4のところでいくと2箇所並ぶところがあって、西の方に向かう長い列とそれから北に向かって並ぶ列で500名と書いてあるが、切符を買うためにまず料金所の所で1回並んで、買った後にまた北側に向けて並ぶのか。それと下の城彩苑で買った方は、もし切符を買った後に上の北側に並ぶとすれば、城彩苑で買った方も北側の方に並ぶのか。その観光客から見たシミュレーションが私としては少し分からないということが1つ。
- ・もう1点は、いま観光ボランティアの方が非常に熱心にやられていて非常に好評だと思う。そういう意味では今後も観光ボランティアの方々の活用があった方がいいかなと思うが、先ほどのスロープを使った中で少し広場ができるが、そういった所での活用ができたらいいなと思う。これは要望なので答えはいらないが、1点目について、シミュレーションの部分をもう一度教えてもらいたい。

(事務局)

- ・まず、二の丸料金所で買われた方達は、資料4の1枚目にあるように左側に並んで買っていただこうと思っている。買われた方は、黄色く網掛けしている陸橋などいろいろ区画を通して、まずは工事用第1スロープのもぎり場所までは一旦お流しする。例えば朝早く料金所で切符を買われた方達はまずもぎり場までスペースがあるので、そこを先頭にしてずっと並んでいただく。当然雑踏整理をしながら、西出丸に続く陸橋の最後まで人が来て、更にそこから溢れようとした時に二の丸の待機場所を稼働させようというシミュレーションをしているということが、まず1つ目の答えになる。
- ・それから、城彩苑の方で切符を買われた方達も、基本的には、まだ西出丸の方に余裕があれば西大手門への陸橋入口に警備員を1人立たせているので、下から上がってきた人達と二の丸料金所で買われた人達をうまい具合に捌いて流していく、既に二の丸の待機場所稼働している状態であれば、城彩苑で切符を買った人達も待機場所の方に並んでいただくということを今考えている。
- ・すみません。少し分かり難かったかと思うが、今のような答えである。

(伊東部会長)

- ・よろしいか。それでは、資料4・5については大体よろしいか。
- ・全体を通じてここで是非言っておきたいということがある委員におかれては、是非ご意見を頂戴したいと思うがいかがか。

(西嶋委員)

- ・この上位計画である昭和57年の保存活用計画、これが改訂されたものに基づいて、保存活用とそれから復旧基本計画が作られて、それに基づいて進めている訳だが、冒頭で委

員長から天守復興部会から公開活用部会にというお話があっただけでも、この公開活用部会というのは相当幅広いことが問われる部会になるのではないかと私は理解をしていた。

- ・委員長からは天守の議論が終わって、公開活用になったというような簡単なお説明でしたが、市民や経済界に向けては、やはり公開と活用というものは相当幅広いテーマであると言わざるを得ない。上位計画である保存活用計画に関しても、市民の参画それから協働ということが初めて盛り込まれている訳ですから、この部会の果たす使命としては、やはりその市民とか経済界とかその地域に対して公開活用をどういう風にしていくということを、やはり開かれた場を作っていく使命がこの部会にあると思う。
- ・復旧に関しては20年の道のりが詳細に示されましたけれども、ある意味では裏を返せばここまでは入れるようになりますよという公開を理解できるものなのかもしれないが、この道のりに順ずるかたちで20年間どういう風に復旧を見せていくかというマスタープランというものをやはりこの部会で作る必要があるのではないかと私は思う。
- ・その中でその料金のこととか、地震で1人も亡くなくなることがなかった熊本城が再開される時に事故がないように安心安全を確保して見学ができるということを熊本城では是非達成をしてもらいたいの、そういう観点からもしっかりそういう場を作って、進めて、市民参画や色々な高度な専門家の知恵を入れて、先ほど委員長からもありましたように、熊本でしかやってないとか、熊本で初めて取り組みましたよとかたちをどんどん発信して、実現していただきたいと思います。

(伊東部会長)

- ・ありがとうございます。私が冒頭で非常に狭い範囲のことを取り扱う部会だというような調子のお話をしましたけれども、途中でやっぱり委員の方々から非常に公開活用に相応しい有効なお意見を頂戴したように思う。お礼を申し上げておきたい。
- ・他にいかがか。それでは、最後、少し私の方から。
- ・公開活用部会ということで、先ほど話した天守の展示の話を中心にやってきたところから公開活用というところで広がりを持ってきたところで、今日はこの特別公開の話を中心に公開のお話をしてきたけれども、およそこれからのこの部会の任務というか、スケジュールとして事務局で考えている議題・議事・検討すべき課題というものにどんなものがあるのかということをやめ教えてもらえれば有り難い。

(事務局)

- ・公開活用部会については、先ほど西嶋委員からもありましたように広義的には大変幅広い意味を持つものだと認識している。今日の議題は特別公開ということになったが、第2回目の公開活用部会も一応年内までを目途に開催したいと思っている。
- ・第2回目の議題等としては、先ほどからも少し話しが出ていたが、やはり特別見学通路

という非常にインパクトのある構造物があるので、まずはその概要がどうなるのか、どういったものが見えるのか、特別見学通路ができた後の来城者の動線やルートがどうなるのか等々を第2回目の部会で予定をしているところ。

- それ以降は、申し訳ないが今のところ未だ決まっていないので、色々なご意見を頂戴しながらにはなると思うが、当面は来年度に向かったまず目の前の公開に向けた施策についてお示ししながらご議論の方をいただければというところまでである。

(伊東部会長)

- はい、ありがとうございました。
- 今日もいろいろ意見が出ましたので、それにどう対応しているとか、検討中なら検討中でも構わないのでどんな風な対応を予定しているのかということでも報告いただければと思う。よろしくお願ひしたい。
- 委員の先生方、他にはよろしいか。それでは、本日の議事は以上ですべて終了ということになる。今日のご意見などを受けて、先ほども申し上げたが、事務局の方でも検討いただければ有り難いと思う。
- 次の開催時期は11月以降で調整か。

(事務局)

- 11月以降で調整し、改めてご連絡させていただきたい。

(伊東部会長)

- また、よろしくお願ひしたい。
- それでは事務局にお返しする。どうもありがとうございました。

(事務局)

- それでは以上を持ちまして第1回公開活用部会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。